

## ～「島原大変、肥後迷惑」の証しを、後世へ～

寛政4年4月1日（西暦1792年5月21日）、雲仙普賢岳の火山活動に伴う眉山崩壊によって引き起った大津波は、有明海沿岸において人命や家屋など多大な被害をもたらしました。死者は、肥後国で約4600人に及び、のちに「島原大変、肥後迷惑」とまでいわれました。玉名地域では干拓地を造成中であった下沖洲村や鍋村で被害が甚大で、県内での死者は玉名郡が最も多く、2221人と記録されています。市内には、この津波災害に伴う供養塔などが数か所残されており、今後も教訓として、守り伝えていかなければなりません。

## ■「寛政大津波」の歴史を伝える石造物などの分布



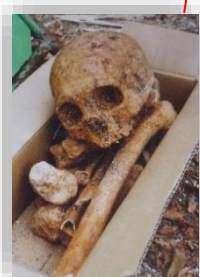
▲扇崎千人塚供養塔



▲狐嶋溺死供養塔と津波死十一人塔

### 工事中に出土した人骨▶

市道の工事掘削中に、砂の堆積層から人骨が発見されました。大津波に巻き込まれ、引き潮と共に砂層に埋もれてしまった犠牲者であった可能性があります。



当時、外平山の崖に突き出していた大石まで津波が押し寄せたといい「津波石」として伝えられていました。昭和53に防災工事によって、当時の大石は別の地点へ移設し保存されています。



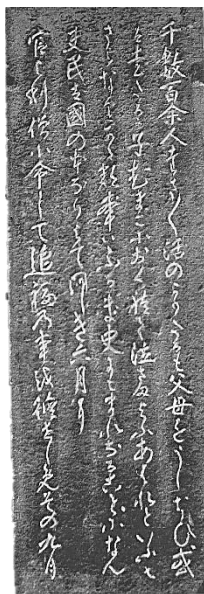


おうぎきせんにんづかくようとう  
■ 扇崎千人塚供養塔

～市指定重要有形文化財（歴史資料）～



▲扇崎千人塚供養塔  
（一郡一基の塔）  
碑文の拓本と内容▶



寛政4年9月、特に被害の大きかった玉名郡、飽田郡、宇土郡には熊本藩によって供養塔が建立されました。これはその一つで、凝灰岩製の方柱形。高さ205 cm（標石は105 cm）を測り玉垣で囲まれています。正面に「南無阿弥陀仏」と他三面に建立の趣旨が刻まれています。玉名郡内の死者2221名の名前を記した小帳を納め、千年の後まで伝えていくことが目的と記されています。

ことし寛政四年 壬子正月より肥前国温泉の嶽煙りたち炎火日に月にさかんにして、おなしき四月一日の夜、山崩れて海に入、うしほわきあふれて我國飽田、宇土、玉名三郡の浦々に及び、良民溺れ死すもの玉名郡に二千二百余人、飽田宇土を合わせ四千数百余人たまたま生き残りたるも、父母をうしなひ或は老いたるか子むまこに於て泣きさまよふ、あわれというもさならんか、かかることはふるき史にもまれなることになん、夫民は国の本なりとて、同じき六月に官より僧に命して追福のことを脩せしめ、九月に一郡に一基の塔を建てられ死者の名を録してここに納め幽魂を鎮めしむ死者もし知る事あらは千年の後までも、死して朽ちずとおもふなるへし。

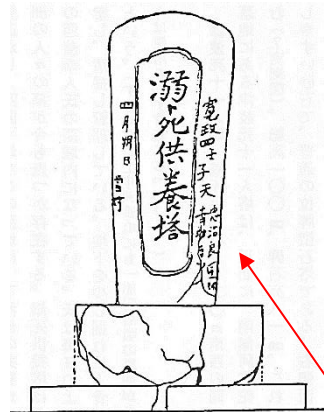
きつねじま で き し く よ う とう  
■ 狐嶋溺死供養塔

～市指定重要有形文化財（歴史資料）～



▲狐嶋溺死供養塔

供養塔の銘文▶



下沖洲村では約300人が亡くなったといわれ、溺死を免れた人々が泣きながら肉親の遺骸を集めて、扇崎の千人塚に仮埋葬されますが、その後の天保8（1837）年、被災から45年の時を経て、26体を子孫が改葬したことがわかります。扇塚千人塚と違って、地元住民の発意によって建立されたことが注目されます。

塔は天草砂岩製で、形状は県内の津波碑では珍しい無縫塔になります。総高は110 cm（碑石高81 cm）。

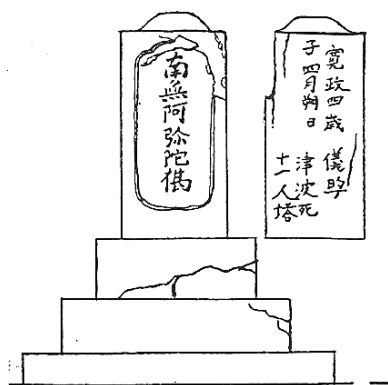
溺死供養塔  
四月朔日  
當村  
子孫中  
往年寛政四壬子四月嶋原於前獄大嶺焼崩入于海其激浪迫隣邦海濱爲之溺死者敢不知其數幸而免於死者半雖蒙疵啼泣而尋親屬死骸埋葬□或面皮壞或支軀損漸離分男女不能知爲其父母某兄弟某夫妻也於茲累々集死骸飯埋于扇崎之壘既有年今也溺死子孫憂之掘骸骨納櫃二十有六筐改葬狐嶋乎曰扇崎者□□□□□□□□謂其志□其□□矣  
于岩  
天保八丁酉七月□□  
銘曰  
波濤靜□□□□忠□□  
□□□子孫振々幸□□  
寛政四壬子天

つ な み し じ ゅ う い ち に ん と う  
■ 津波死十一人塔

～市指定重要有形文化財（歴史資料）～



▲津波死十一人塔



狐島溺死供養塔と同じ墓地にあります。寛政4年の津波犠牲者の墓であることは間違いありませんが、建立の年月や由来は彫られていないため不明です。塔は天草砂岩製です。天草石工による石造物は18世紀末以降に高瀬周辺で増加し、有明海流通圈を示すといわれています。

正面：南無阿弥陀仏

側面：寛政四年歳子四月朔日 津波死十一人塔 儀口

総高100 cm、碑石高81 cm